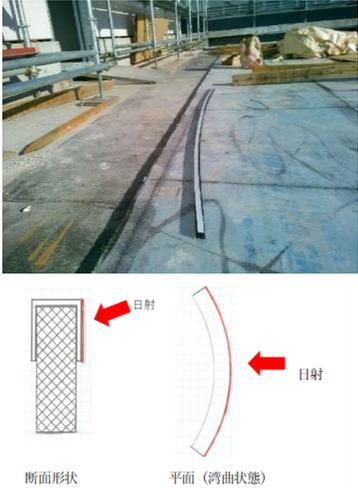
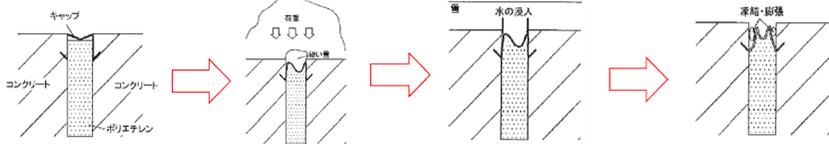
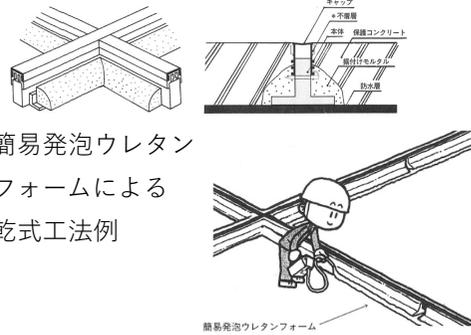
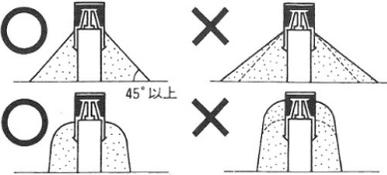
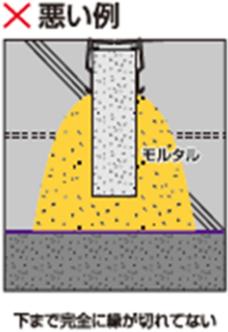
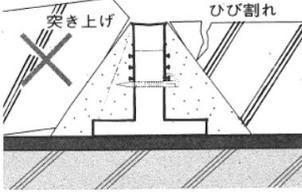
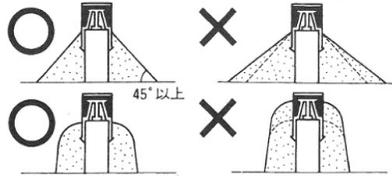


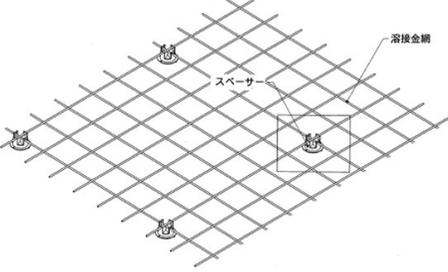
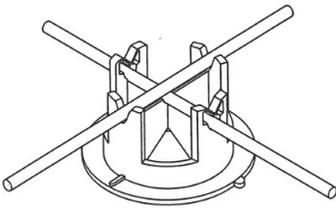
	現象	原因の推定等	防止方法	補修方法
1	<p>キャップ部の湾曲</p>  <p>※写真は影が判り易いよう反対向きに置き直したもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定前に一方向からの日射によりキャップ部が変形した</li> <li>・施工前に立掛ける等保管時に問題があった</li> <li>・明け方と日中の温度差が大きい</li> <li>・目地本体に発泡ポリエチレンフォームを用いたタイプに発生しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日射方向に留意する</li> <li>・保管は立掛けず、コンパネ等平坦な場所</li> <li>・仮止め状態で長時間放置しない</li> </ul> <p>*標準施工マニュアルP-6参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日差しに注意して置き直し、様子を見る</li> <li>・梱包に戻す、または日陰に置いて様子を見る</li> </ul>
2	<p>キャップ部の反り・飛出し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャップアンカー部の保護コンクリートからの抜け</li> <li>・キャップ部の経年変化による反り</li> <li>・キャップ部の圧縮による変形</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在販売されている製品は、キャップ部の形状面では打設されるコンクリートに対する投錨効果（アンカー効果）や付着力が発現しやすい形状に、材質面では寸法安定性を向上させるガラス繊維等の添加剤を混入する等の改良が施されており、このような不具合は生じていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛出したキャップを除去し、10～15mm程度の深さまで目地本体を撤去してシール材を充填する</li> <li>・シール材充填は目地部が湿っていると付着力が低下するので十分乾燥させる</li> </ul> <p>※シール材：ペンギンシールPU979（土間目地用）など</p>

	現象	原因の推定等	防止方法	補修方法
3	キャップ部の収縮 	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩化ビニル樹脂製キャップの経年による収縮</li> <li>外断熱保護工法による保護層蓄熱による影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在販売されている製品は、キャップ部の材質を収縮量の大きな塩化ビニル樹脂からガラス繊維混入ポリエチレン製に改良されており寸法安定性が改善されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャップ部の収縮箇所は、キャップ部及び目地本体を10～15mm程度の深さまで撤去してシール材を充填する</li> <li>シール材充填は目地部が湿っていると付着力が低下するので十分乾燥させること</li> </ul> ※シール材：ペンギンシールPU979（土間目地用）など
4	キャップ部の割れ・穴あき 	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋭利なものによる穴あき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピンヒール等で目地部に局所的な圧力をかけない</li> <li>工具等を目地部に落さない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピンホール程度の穴開きは、シール材を充填する</li> <li>キャップ部を除去し、目地本体を10～15mm程度撤去しシール材を充填する</li> <li>シール材充填は目地部が湿っていると付着力が低下するので十分乾燥させること</li> </ul> ※シール材：ペンギンシールPU979（土間目地用）など

	現象	原因の推定等	防止方法	補修方法
5	<p>寒冷地のキャップ部損傷</p>  <p>目地の凹みに固まった雪</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>除雪した雪の堆積部の凍結融解、堆積の繰返しにより目地中央部に圧縮力が集中したものと推定</li> <li>保護コンクリートの収縮により目地キャップ部が塑性変形を起こしたと推定</li> <li>真夏に打設したコンクリートは収縮量が大きく、目地とのすき間が出来やすい</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>除雪した雪は目地部に堆積させない</li> <li>堆積した雪の上から圧力をかけない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変形したキャップ部を除去し、目地本体を10～15mm程度撤去してシール材を充填する</li> <li>シール材充填は目地部が湿っていると付着力が低下するので十分乾燥させること</li> </ul> <p>※シール材：ペンギンシールPU979（土間目地用）など</p>
6	<p>重量物による損傷</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>伸縮目地固定用モルタルによる伸縮目地周辺部のコンクリート厚さ不足</li> <li>ワイヤーメッシュが届いていない若しくは効いていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴンドラ等重量物のコンパネ等による養生を行う。</li> <li>乾式工法採用によるコンクリート厚さの確保</li> </ul> <p>※標準施工マニュアルP-9以降参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護コンクリート破損部分及び伸縮目地の撤去、保護コンクリート及び伸縮目地の再設置</li> </ul>

	現象	原因の推定等	防止方法	補修方法
7	<p>伸縮目地交点付近の保護コンクリート損傷</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>伸縮目地交点付近の目地固定用モルタルによる保護コンクリートの厚さ不足</li> <li>交点付近までワイヤーメッシュが届いていない</li> <li>外断熱保護工法の目地交点付近での断熱材の損傷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目地交点付近の固定用モルタルが多にならないよう設置する</li> <li>乾式工法採用によるコンクリート厚さの確保</li> </ul>  <p>※標準施工マニュアルP-9以降参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護コンクリート破損部分及び伸縮目地の撤去、保護コンクリート及び伸縮目地の再設置</li> </ul>
8	<p>目地際保護コンクリートの損傷</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>伸縮目地固定用モルタルを伸縮目地の高い位置まで設置したことによる保護コンクリートの厚さ不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目地立て時のモルタル設置に留意する</li> <li>乾式工法採用によるコンクリート厚さの確保</li> </ul>  <p>※適切なモルタル設置例 ※標準施工マニュアルP-15以降参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護コンクリート破損部分及び伸縮目地の撤去、保護コンクリート及び伸縮目地の再設置</li> </ul>

	現象	原因の推定等	防止方法	補修方法
9	<p>保護コンクリートの損傷</p>  <p>赤線は棟位置を示す</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棟部のコンクリートが薄い</li> <li>・底目地が切れていない</li> <li>・入隅の立上り緩衝材未設置</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棟部に伸縮目地を設ける</li> <li>・伸縮目地を浮かして設置しない</li> <li>・入隅への立上り緩衝材設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護コンクリート破損部分及び伸縮目地の撤去、保護コンクリート及び伸縮目地の再設置</li> </ul>
10	<p>保護コンクリートのせり上がり</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伸縮目地固定用モルタルを裾幅広く全面にわたり設置したことで下図のように突き上げを誘発した</li> <li>・伸縮目地固定用モルタルをキャップ上端部まで設置した</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾式工法の採用により確実な縁切りと保護モルタルによるスロープ状態の防止を図る</li> <li>・基礎部周辺に立上り緩衝材を設ける</li> <li>・適切なモルタル設置例</li> </ul>  <p>※適切なモルタル設置例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護コンクリート破損部分及び伸縮目地の撤去、保護コンクリート及び伸縮目地の再設置</li> </ul>

	現象	原因の推定等	防止方法	補修方法
11	目地周辺部の黒ずみ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒ずみ部の成分分析結果は油脂類の溶出</li> <li>・アスファルト成分を含む滞留水が表層に湧出したものと推定</li> <li>・アスファルト成分のゲル化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伸縮目地底の水抜き溝の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伸縮目地としての機能に問題はなく、処置としては保護層の再設置となる</li> </ul>
12	ワイヤーマッシュ上部の爆裂 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイヤーマッシュ上の保護コンクリートかぶり厚不足</li> <li>・作業中にワイヤーマッシュを踏むことにより曲がり、端部が跳ね上がった</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイヤーマッシュの適切な配置と固定</li> <li>・ワイヤーマッシュ上部の適切なコンクリートかぶり厚を確保</li> <li>・伸縮目地固定用モルタルの適量化</li> <li>・ワイヤーマッシュの敷設後は養生板を置き、その上を歩くことでワイヤーマッシュの変形を防ぐ</li> </ul>  <p>※ワイヤーマッシュ固定治具例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイヤーマッシュ飛出し部及び伸縮目地の撤去、保護コンクリート及び伸縮目地の再設置</li> </ul>